

開催日	2025年11月15日(土)
開催時間	13:00～16:50
名称	現場を変えるロボット技術 ～暮らしと社会を支える AI・ロボットの最前線～
主催	(公社)日本技術士会神奈川県支部、(地独)神奈川県立産業技術総合研究所 共催
開催場所	産業貿易センター 3 階 302 号室 および Web 中継
行事内容	講演会
参加人数	82名(会場21名+Web 61名)

内容

I 講演概要

【講演1】 オンデマンド型の計測技術を基盤としたスマート農業の実現と農業・園芸DX

講師:千葉大学大学院園芸学研究院 先端園芸工学講座 助教 濱 侃 氏(博士(理学))



カメラやLiDARなどの各種センサーを用いた非接触・遠隔のセンシング技術は、労働集約的で非効率な従来の計測作業のボトルネックを解消し、省力化と高効率化を実現するブレイクスルー技術として期待されている。デジタル技術による計測の革新とその応用先の一つである農業・園芸分野について、スマート農業、デジタルトランスフォーメーション(DX)をキーワードに、多種多様な未来の農業の現場への貢献を考えながら講演された。

【講演2】 ロボットの新ビジネス、新サービス創出支援について

講師:(地独)神奈川県立産業技術総合研究所(KISTEC)

事業化支援部 橋渡し支援課 事業化促進・デザイングループ

グループリーダー 守谷 貴絵 氏



ロボット開発においては、単なる技術の実装にとどまらず、ユーザーにとっての価値ある「顧客体験」の創出が不可欠である。KISTEC では、さがみロボット産業特区の取り組みの一環として、生活支援ロボットの研究開発から事業化までを一貫して支援している。本発表では、ロボットを活用した新たなビジネスやサービスの創出に向けたアプローチや支援事例について紹介された。

【講演3】 インフラ業界におけるロボット技術の社会実装

講師:株式会社イクシス 代表取締役CTO 山崎 文敬 氏



インフラの老朽化や少子高齢化、働き方改革など、インフラ業界を取り巻く社会課題はますます深刻になる中、一方でロボットを始めとする新技術の社会実装は思うように進んでいない。ロボットのようなディープテックを社会実装するには単に高度なロボットを開発するだけではなく、それを社会実装するための仕掛けが重要と考えている。本講演では、当社が推進する、インフラ業界へロボットを実装するためのビジネスモデルを紹介された。

【講演4】 生活支援ロボットにおけるAI+ロボットの開発事例

講師:株式会社クフウシヤ 代表取締役 大西 威一郎 氏



ロボット技術のさらなる社会実装を進め開発した、オリジナル四脚ロボットや階段昇降ロボット、掃除ロボットや TIG 溶接支援ロボット CO TIG Welders、また、日本科学未来館様の受託開発製品AI スーツケースの大阪万博における運用実績について講演された。

【講演5】 未来のインフラを守る！清掃ロボットPuliroシリーズの開発事例

講師:株式会社小川優機製作所 代表取締役 小川 壮一 氏



新型コロナウイルス蔓延時に注目されたエッセンシャルワーカーと言われる、社会に必要な人たち。その中に、公共施設の清掃を担う方々がいた。また、昨今はインバウンド政策による外国人旅行者の増加により、日本の美の象徴とされる公共空間の「きれい」が、文化の違いから大きく崩れている。それら、「感染」「汚い」「悪臭」「世間の目・SNS」等にさらされながら、毎日清掃してくれている清掃員さんをロボット技術でどのように助けているか、高速道路事業者、鉄道事業者向けの業務用トイレ清掃ロボットの開発および社会実装にむけ取り組みの事例を紹介された。